

佳作

自由を生きる

大分県 大分東明高等学校三年 安田 晴稀

私は最近、命や自由について触れ、考えることが多々あります。そのきっかけとなった出来事の一つは、ウクライナとロシアの戦争です。この戦争は、今年の二月から現在まで終戦することなく続いています。私はこの戦争をニュースで知った時、「昔起きた戦争から何も学んでいないのか」と疑問に思いました。その戦争の一つは、第二次世界大戦です。

この戦争は、最も多くの人々が被害に遭いました。戦争へ出兵し戦死した人、差別によって殺害された人、爆撃の被害で亡くなった人、家族をなくし生きていくことが困難になった人、戦犯として死刑判決を下された人。他にも様々な理由で苦しんだ人々がいます。戦争から良いものは何も生まれません。生まれるのは、悲しみや苦しみなどマイナスなものだけです。生き残った人々は、終戦からその事を胸に刻み、次の世代へと語り継ぎ、平和を目指して努力してきたはずですが、今回のウクライナとロシアの戦争が起こり、その想いや努力が碎

けたような気がしました。テレビを点けても、インターネットを開いても、戦争の被害に遭っている人々の泣き顔や悲痛な叫びで溢れ返っています。何より、なぜこの戦争が起こっているか理解できない幼い子供たちの恐怖に怯える姿は、胸が張り裂けそうでした。これから沢山学び、遊び、悩み、考えていくはずの未来ある罪無き子供たちが何故、被害に遭わなければならないのかと。

今回の戦争が起きた理由には、国家間の問題があります。しかし、どんな理由があろうとも戦争は起きてはならないし、起こしてはなりません。解決しなくてはならない問題があるのなら、話し合っ解決するべきです。国によって法律や事情は違います。そんな国々が戦争をせずに共存していく為に、今まで選挙や国同士の会議が実施されてきました。命は皆、平等であるべきです。「自分の国を守る為だから仕方が無い」と言い訳をしてはいけません。国は、国民の命と自由を背負っています。責任を持って冷静に判断し、解決していく義務があります。

今を生きるほとんどの人が、戦争を経験したことがありません。私もその一人です。そんな私たちの為に、もう戦争が起きないように、戦争の恐ろしさや無謀さを語ってくださる戦争経験者の方々がいます。今年の夏休み、私はとある番組を観ました。その番組は、戦争を経験したことのない若者が、戦争を経験した方々に話を伺

いに行く内容でした。計五人の方に話を伺いに行っていました。一人目の方は、防空壕の中の簡易的な病院で、負傷した兵士の治療をする看護師をしていた当時学生だった女性です。二人目の方は、海軍特別年少隊に所属し、敵の戦艦に魚雷を撃ち込む任務をしていた当時十四歳だった男性です。三人目の方は、空襲に遭い、一瞬にして目の前で家族を失ってしまった当時九歳だった男性です。四人目の方は、空襲で家族を失い、身寄りも無く、四歳の弟を守りながら途方に暮れていた当時七歳だった女性です。五人目の方は、空襲で家族を失ったにも関わらず、絶望やこれからの不安でいっぱい泣くことすらも出来なかった当時七歳の男性です。

五人の方の話を聞いて一番に思った事は、戦争は命だけでなく人を想う気持ちも奪ってしまうものだということです。人々は助け合っているからこそ生きていけると思います。しかし、戦争という恐怖を感じていた当時の人々は、自分の身を守ることと精一杯。道端で倒れている人やひもじい思いをしている人がいても、手を差し伸べる事が出来ない。自分の気持ちを押し殺して生きることもまた、苦しいことだったでしょう。

私は、医療従事者を目指しています。沢山の人々が健康に日々を楽しく生きていく為に、少しでも貢献していきたいと思っています。こうして、自分の将来を決められる、やりたいことが出来る、誰か

のために行動出来る、そんな今を、当たり前ではないことを忘れずに生きていかなければならないと思いました。私たちは自由を守る為に、戦争経験者の方々の想いを受け取り、戦争がどんなに残酷であるかを語り継いでいかなければなりません。それが、今を生きる私たちの使命ではないでしょうか。